

第 95 回岩手医科大学歯学会総会抄録

日時：令和 5 年 12 月 2 日（土）午後 1 時より

会場：岩手医科大学歯学部 講堂（A 棟 4 階）

特別講演

生体に調和したクラウンの咬合面形態を求めて

Occlusal surface of the crown in harmony with the organism

○田邊 憲昌

岩手医科大学歯学部 補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野

近年の歯科臨床におけるデジタル技術の進歩はめざましく、ジルコニアによる歯冠補綴やコンポジットレジンブロックによる CAD/CAM 冠の保険収載など新しい治療法が普及してきている。中でも CAD/CAM 装置によるクラウンの製作は現在、最も臨床において広く普及しているデジタル技術の 1 つであり、実際に岩手医科大学においても歯科医療センターでの製作数は年々増加し続けており、今後も発展していくことが期待される。

現在の社会状況から、金属価格の上昇や歯科技工士の不足などの問題があり、CAD/CAM による補綴装置の製作はこれらの問題を解決する方法の 1 つと考えられる。デジタル技術による補綴装置製作の利点としては、製作に関わる作業工程の短縮や人的・物的資源の削減といったメリットなどが挙げられる。しかしながら、デジタル技術が進歩しても、これまでに培われてきた鋳造法を中心とした補綴歯科治療よりも補綴装置の精度という意味では、まだまだ不十分な面が多く、今後の検討の余地が残されている。

我々の研究グループでも口腔内スキャナーやデジタル咬合器などを用いたクラウン製作について、どうすれば臨床において有効な臨床成績が得られるのかを念頭に置いて製作の方法や手技についての検討を行ってきた。特にクラウン

咬合面形態は、咀嚼・咬合機能に関わり、調整にも時間を要する部分であり、重要なポイントの一つである。

本講演では下顎運動データを反映した咬合面形態を付与した CAD/CAM 冠の製作方法ならびに口腔内スキャナーによる咬合採得に咬合力がどのように影響するのかについて研究データをもとに報告する。

優秀論文賞受賞講演

1. 化学療法中の唾液及び末梢血中白血球量の変動と口腔粘膜炎症の関連－臨床的縦断研究－

Association of oral mucositis occurrence with changes of leucocyte levels in saliva and peripheral blood during chemotherapy: a clinical longitudinal study

○杉山 由紀子

岩手医科大学歯学部口腔医学講座予防歯科学分野

口腔粘膜炎は化学療法を受ける患者に最も多く見られる有害事象である。唾液白血球が口腔粘膜の健康の維持に寄与していることは知られているが、化学療法中の患者に発生する口腔粘膜炎との関連は不明である。そこで本研究では唾液白血球量を測定し、末梢血中白血球量とともにそれらの動態と口腔粘膜炎の発生との関連を明らかにすることを目的とした。岩手医科大学附属病院で化学療法を受けている患者 31 名を対象とし、化学療法開始前に口腔内検査と唾液白血球量の測定を実施した。化学療法開始後は約 2 日ごとに唾液白血球量の測定、口腔粘膜の評価、口腔の疼痛程度の評価、口腔湿潤度の測定を行い、末梢血白血球数を診療記録から採